

こどもの炎症性腸疾患 潰瘍性大腸炎・クローン病

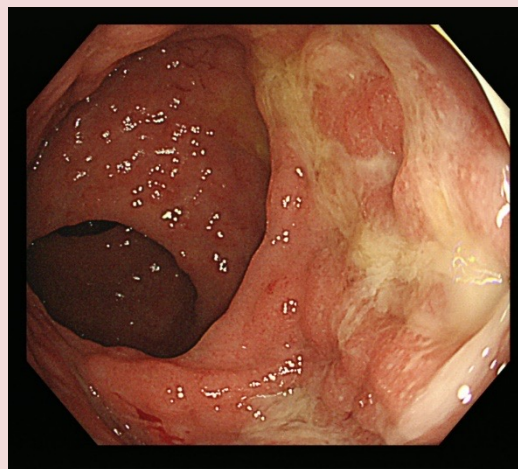
医学研究所北野病院 小児外科

炎症性腸疾患とは？

炎症性腸疾患とは、腸に慢性的な炎症が起こる疾患で潰瘍性大腸炎、クローン病に大別されます。近年増加傾向にあり、小学校高学年頃から多く見られます。これらは指定難病となっており、早急に診断をつけ、治療を開始する必要があります。

どんな症状？

長引く下痢、血便、腹痛で見つかる事が多いです。



潰瘍性大腸炎（大腸）

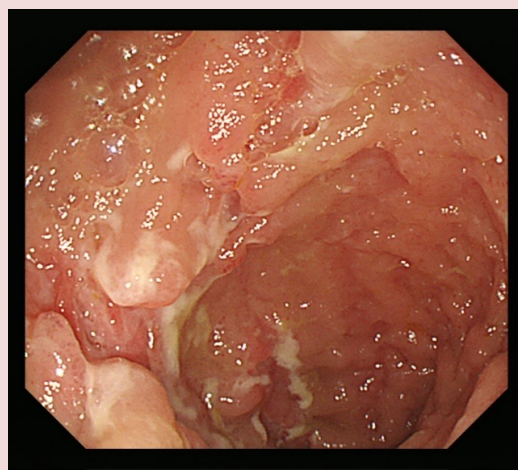
検査は？

炎症性腸疾患が疑われれば、便検査・血液検査でおおよその検討がつけられます。

しかし、確定診断には大腸内視鏡検査を行う必要があります。

治療は？

炎症性腸疾患の治療は重症度や患者さんそれぞれの症状に応じて異なります。食事療法、薬物療法などを組み合わせておこないます。



クローン病（小腸）

こどもの内視鏡検査

当院では、消化器内科の協力のもと、こどもの消化管内視鏡検査が可能です。こどもにとって内視鏡検査は、非常に怖いものです。ただ、病気の診断・治療にはどうしても必要な検査です。こどもの内視鏡検査は、できるだけ怖くないように麻酔科と協力して眠ってる間に検査・治療できる体制をとっております。こどもの消化管内視鏡検査についてお気軽にご相談ください。